

広島県立府中高等学校校舎（26号棟）改築工事に伴う 実施設計業務の設計者選定結果について

1 選定結果

広島県立府中高等学校校舎（26号棟）改築工事に伴う実施設計業務の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり候補者と次点を特定しました。

- 候補者 株式会社 感性舎
- 次点 株式会社 あい設計

2 報告

府中高等学校校舎（26号棟）改築工事に伴う実施設計業務は、学校の顔としてのふさわしさや、自然環境に対するやさしさ等に配慮した魅力ある公共建築とするために、設計者の発想力を今まで以上に活かすことを目的として、公募型プロポーザルによる設計者の選定を行いました。

(1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設管理者及び行政職員等で構成する「広島県立府中高等学校校舎（26号棟）改築工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、審議しました。

●設計者選定審査委員会委員（順不同・敬称略）

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	錦 織 亮 雄	広島県建築士会 会長	建築設計
委員	平 野 吉 信	広島大学 大学院工学研究院 教授	建築計画
委員	杉 田 輝 征	社団法人広島県建築士会 常務理事 社団法人日本建築家協会 会員	建築設計
委員	島 村 隆 義	国土交通省中国地方整備局営繕部整備課長	営繕行政
委員	橘 高 参 吉	府中市まちづくり部まちづくり課長	まちづくり
委員	河 原 直 己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政
委員	岡 本 泰 宏	広島県教育委員会事務局管理部 施設課長	主管課

(2) 公募型プロポーザル関連のスケジュール

- 平成25年 2月12日 ○第1回設計者選定委員会
・審査基準等の策定
- 平成25年 2月13日 ○公募型プロポーザルの公告
- 平成25年 2月25日 ○参加表明書の提出締切
・参加者9者（内、設計共同体1者）
- 平成25年 2月27日 ○第2回設計者選定委員会
・技術提案書の提出要請者の選定
- 平成25年 3月 1日 ○技術提案書の提出要請
・要請者5者
- 平成25年 3月15日 ○技術提案書の提出締切
- 平成25年 3月26日 ○第3回設計者選定委員会
・ヒアリング・技術提案書の評価
・技術提案書の特定
・県への報告
- 平成25年 4月中 旬 ○設計業務委託契約締結（予定）

(3) 審査概要

- ① 技術提案書の提出者（一次審査）
参加表明のあった9者からの参加表明書を審査し、得点の高い者から5者を選定しました。
- ② 技術提案書の特定（二次審査）
一次審査の結果、技術提案書を求めた5者から提出された技術提案書の評価及び提出者からのヒアリングにより、技術提案書の特定を行いました。

(4) 技術提案書の講評

- ① 総評
今回のプロポーザルは、100年の歴史を誇る高等学校の普通・特別教室棟を建替えるための実施設計を対象としたものでした。
技術提案書の特定にあたっては、学校の伝統と地域の歴史に相応しい施設整備のあり方や、自然環境へのやさしさ等の観点から技術提案書の審査やヒアリングを行いました。
各社とも、それぞれの思いを反映させた意欲的な技術提案となっていました。
- ② 特定者
環境負荷の低減と自然エネルギーの活用の取組みが今回の提案者の中で最も高く評価された提案です。
既存の建物との関係性に配慮して実現性の高い提案となっていた点、内部空間を可変性の高いスケルトン・インフィルの構成とするなど施設のサステナビリティを考慮した点、既存の窓からの象徴的な景色を新しい建物からの景色として踏襲し時間をとどめることで歴史と文化を育み受け継がれていく施設の創造といった点などが評価されました。

③ 次点者

分棟式とすることで、中庭を庭園にして敷地全体を貫く軸としての特別な意味を持たせた意欲的な提案でした。

配置や一部の棟を木造とするなどチャレンジ精神は評価できますが、庭園の使い方イメージが曖昧である、既存建物との関係をもう少し考慮したほうが良かった、自然環境に対する配慮の記述がもう少しあればよかったなどの意見が出されました。